次の問8は必須問題です。必ず解答してください。

問8 次のプログラムの説明及びプログラムを読んで、設問1、2に答えよ。

1 行の代入文を解析し、演算の優先順位に従って一つずつ演算を行っていく一連の 代入文に変換して出力する。代入文とその出力結果の例を、次に示す。ここで、出力 結果にある wk#1 などは、中間結果を保存するための作業変数である。

> (代入文の例) Ans=X1+10*X2

(出力結果の例) wk#1=10*X2 wk#2=X1+wk#1 Ans=wk#2

代入文の形式は、次のとおりである。

変数=式

"="は代入演算子で、右辺の式の値を評価した結果を、左辺の変数に代入する。

式は、変数又は定数(以下、項という)の一つ以上の並びで、項が二つ以上のときは各項の間に算術演算子を置く。変数は、英字("A"~"Z", "a"~"z")で始まる1文字以上の英数字の列である。定数は、1文字以上の数字("0"~"9")の列である。

算術演算子は,加算 ("+"),減算 ("-"),乗算 ("*"),除算 ("/")の4種類である。 乗除算は加減算に優先する。同一優先順位の算術演算子は,左から順に演算する。

[代入文の構文解析]

解析処理は,次の手順による。

- (2) n 文字からなる代入文を、文字型配列 S の要素番号 $1\sim n$ に格納し、S[0] に開始マーク "*" を、S[n+1] に終端マーク "*" を、それぞれ格納する。次に、整数型配列 V を用意し、S[i] の内容に対応した表 1 のコードを V[i] に格納する。その例を、次に示す。

表 1 文字とコードの対応

S[i]の内容	«	»	英字	数字	=	+, -	*, /
V[i]に格納する内容	0	1	2	3	10	11	12

- (3) 初期値として st に "開始" を, err 及び i に 0 を, それぞれ格納する。st は, 解析の状態を格納している変数である。
- (4) iに1を加算する。表 2 で、現在の st の状態(行)と着目している文字 S[i]の内容(列)が交差するセルの内容を実行する。ただし、セルが空白の場合は、何も実行しない。実行の結果、errの値が0以外となったら手順(5)へ、st の値が"終端"となったら手順(6)へそれぞれ進む。それ以外の場合は、この手順(4)を繰り返す。

表 2 状態遷移表

st S[i]	英字	数字	=	+, -, *, /	»
"開始"	st ← "左辺"	err ← 12	err ← 13	err ← 14	err ← 15
"左辺"			st ← "代入"	err ← 24	err ← 25
"代入"	st ← "変数"	st ← "定数"	err ← 33	err ← 34	err ← 35
"変数"			err ← 43	st ← "演算"	st ← "終端"
"定数"	err ← 51		err ← 53	st ← "演算"	st ← "終端"
"演算"	st ← "変数"	st ← "定数"	err ← 63	err ← 64	err ← 65

- (5) err の値に応じて適切なエラーメッセージを表示し、処理を終了する。
- (6) 文法上の誤りがなかった旨を表示し、処理を終了する。

設問1 〔代入文の構文解析〕に関する次の記述中の に入れる正しい答え を、解答群の中から選べ。

文法上の誤りがある次の代入文①~④を、解析処理の手順によって解析した。

代入文① Answer=One+Two+Three+

代入文② HexaSum=7FFF+0001

代入文③ Position=Index++

代入文④ X1+10*X2=Ans

解析処理の手順 (5) に進んだとき, a の場合は err の値が 51 に, b の場合は err の値が 64 になっている。

解答群

ア 代入文①

イ 代入文②

ウ 代入文③

工 代入文④

〔代入文の変換〕

変換処理は、次の手順による。〔代入文の構文解析〕の手順は実行済みで、代入文には文法上の誤りがないものとする。

- (1) 初期値として、wに0を格納する。
- (2) 配列 S, V の開始マークから終端マークまでの範囲を検査し、優先順位が最も高い最初の算術演算子の要素番号を変数 next に格納する。その例を、次に示す。算術演算子がなければ、next に 0 を格納する。

- (3) next が 0 なら、配列 S 中の代入文を出力して、処理を終了する。
- (4) next の位置の演算子とその前後の項からなる文字列を抜き出す(図 1 の①)。wに 1 を加算し、出力する代入文を編集して出力する。出力する代入文は、文字列"wk#"、文字列に変換した値w、文字"="及び抜き出した文字列をこの順に連結したものである。次に、配列 S について、抜き出した元の文字列を、文字列"wk#"及び文字列に変換した値wで置き換える(図 1 の②)。置き換えるときに、文字数が増える場合は以降の文字を後ろにずらし、減る場合は以降の文字を前に詰める。さらに、更新された配列 S の内容に応じて配列 V の内容を更新する。文字"#"に対応するコードは、英字のコードと同じとする。

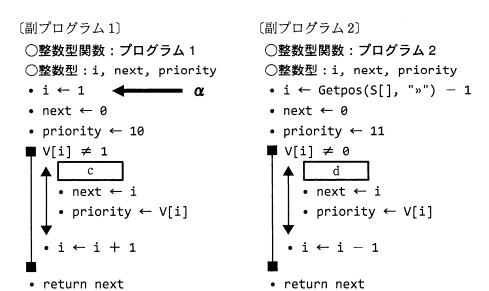


(5) 手順(2)へ戻り,処理を繰り返す。

設問2 〔代入文の変換〕に関する次のプログラム中及び記述中の に入れる正しい答えを、解答群の中から選べ。

なお,プログラム中の関数 Getpos(配列,値)は,値が格納されている配列中の最初の要素番号を返す。また,配列 S, V は大域変数として与えられ,副プログラム中から参照できるものとする。

(1) 手順(2)の処理を行う2種類の副プログラム1,2を作成した。



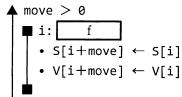
プログラム1の α の行では、iに1を格納している。

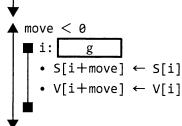
ここで、 α の行を " i ← e " とすれば、繰返し処理の繰返し回数を最小にすることができる。

(2) 手順 (4) の処理中で使用する副プログラム 3 を作成した。このプログラムは、配列 S, V の要素番号 from 以降(終端マークまで)の要素を前後に移動する。move は、移動する桁数と方向を示し、符号が正の場合は後ろにずらし、符号が負の場合は前に詰める。moveの値が-3(左に3 桁詰める)の場合の例を、次に示す。ここで、配列 S, V は十分な大きさがあるものとする。

〔副プログラム3〕

- ○プログラム 3(整数型: from, 整数型: move)
- ○整数型:i, to
- to ← Getpos(S[], "»")





- c, dに関する解答群
 - \mathcal{T} priority < V[i] \land priority \leq V[i]
 - ウ priority ≧ V[i]
- 工 priority > V[i]

- eに関する解答群
 - \mathcal{T} Getpos(S[], "«") + 1 \mathcal{T} Getpos(S[], "«") + 2
- f, gに関する解答群
 - \mathcal{T} from, i < to, 1
- ウ to, i \ge from, -1
- イ from, $i \le to$, 1エ to, i > from, <math>-1